

あかるく かしこく たくましく

令和7年2月26日 No. 44 文責：校長 佐野紳二

「学級通信」と「学校通信」

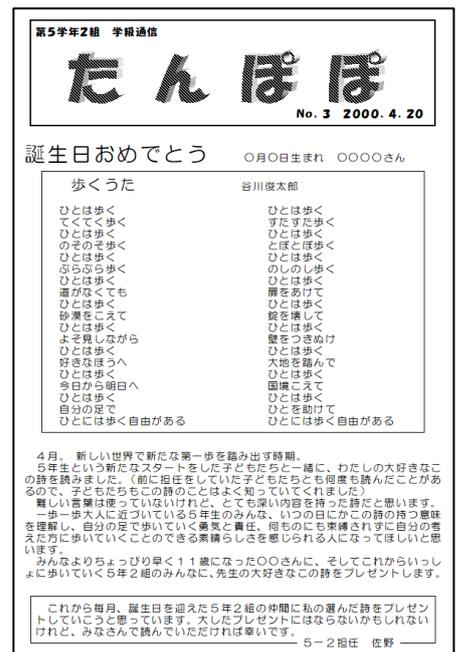
間もなく教員生活38年目が終わろうとしている私ですが、ふとあるときに「そういえば、38年の間に【おたより】って、どれくらい書いたかなあ…？」なんていうことが気になり、ちょっと振り返ってみました。私事で大変恐縮ですが、今日は佐野がこれまでに書いた通信について書かせていただきます。

学級通信

学級通信を初めて書いたのは、教員になって7年目に赴任した甲府市立北西中学校だったと記憶しています。慣れない中学生相手に、自分の考えていることを伝える手段として書き始めました。次に赴任した敷島中学校でも学級通信を書きましたが、小学校に戻ってから何年かは、学級通信は書きませんでした。この頃は手書きやワープロで学級通信を書いていたため、残念ながら現在、私の手元には当時の学級通信は残っていません。

本格的に学級通信を書き始めたのは、2000年に5年生の担任をした時でした。以来、最後に学級担任をした時まで、学級担任をした時には必ず学級通信を書きました。元来、さぼり癖のある私は、「書いても書かなくてもいい」という状態では「できるだけさぼりたい」という自分に負けてしまうので、常に「書かなければならない」というルール（状況）を作るようにしていました。それが、受け持ったクラスの子の誕生日には、「誕生日おめでとう号」を発行するというマイルールです。担任時代の大半を、5、6年と続けてクラスを持たせていただいたので、5年生の時にはその子に合った詩をプレゼントするというおたよりを、6年生の時には、今、小笠原小でやっている「いいところ見つけ」の拡大版をおたよりにして発行しました。年によっては、発行した学級通信の大半が「誕生日おめでとう」だったこともあります。13回の担任経験の中で900号ちょっとの学級通信を書かせていただきました。（もちろん、同じ詩や同じ内容を使いまわし、通信を書いたことも度々ありますが…）今の担任の先生方は、学級通信を書いている暇がないほど忙しいのだろうと、先生方を見ていて思います。そういう意味では、私が担任をしていた頃は「古き良き時代」だったのだろうと、今では思っています。

学級通信を書き続けることは大変ではありましたが、私にとっては「とても楽しい時間」でもありました。特に「誕生日おめでとう」の詩を探すのは、とてもワクワクする時間でした。赴任した学校の図書室で詩集を手に取り、自分でも詩の本を購入し、ネットでも詩を検索しました。その子に合った詩や季節感が感じられるステキな詩、自分の好みに合った詩を見つけたときは、本当に嬉しかったものです。また、詩とともに「歌詞」をプレゼントすることもたびたびあったので、【「誕生日おめでとう」に使える詞】を探しながら歌を聴くことも多々ありました。きっとそうしたことが、単純に「好き」だったからこそ、続けられたのだらうと思っています。そんなこんなで、次回からのおたよりではしばらくの間、私がかつて書いていた「誕生日おめでとう」のスタイルで、各学年に（ちょっと早いですが）「進級・卒業おめでとう」という通信を書かせていただこうと思っています。



佐野が最初に書いた「誕生日おめでとう」

学校通信

ほとんどの学校がそうであるように、本校の学校通信を発行するのは校長の仕事になっています。私は前任の橿形北小学校と本校で校長をさせていただきましたので、通算4年間学校通信を書かせていただく機会を与えていただき、両校合わせて（今号までに）全部で267号の学校通信を発行させていただきました。

特に小笠原小学校では、学校での出来事はホームページと地域回覧用の通信でお知らせし、保護者向けの通信では自分の書きたいことを自由に書かせていただきました。時には教育に関係のある話題を提供させていただくこともありました。半分以上は自分の興味があることについて調べたこと

（時には教育とまったく関わりのないこと）を書きました。おおよそ「学校通信らしくない」通信も多く、こうしたスタンスが学校通信として本当にふさわしいものだったかと問われると、私自身、全く自信がありません。でも、いつも「何か家庭で共通した話題になるような情報を提供しよう」という思いをもって書かせていただいています。

私が意図していたように、読み手である保護者の皆様が読んでくださったかは分かりませんが、（書いて発行するまでが書き手の責任で、読み手がそれをどう読むかは、読み手に委ねられるものだと承知しています）私にとって学校通信を書くことは、毎日のホームページを更新することとともに、校長の仕事の中でも「楽しい」と感じられる仕事のひとつです。

私にとってはこれまでに書いた学校通信のすべてが、どれも同じように大切なものだと思っていますが、そんな中でも、「自分が好きな学校通信」がいくつかあります。これは完全に個人の好みなので、読み手のみなさんに共感していただけるかは分かりませんが、今日は「自分が好きな学校通信ベスト3」を紹介させていただいちゃおうと思います。

第3位：小笠原小学校の歴史シリーズ（R5年度発行 No.2, 6, 7, 15, 17, 31）

創立150周年を迎えた本校の歴史について調べたシリーズです。自分自身、小笠原小学校には長く勤務させていただいていますが、知らなかったことも多く、いろいろな発見がありました。

第2位：「推し」について考える（R6年度発行 No.43）

これは記憶に新しいところですが、先日発行したばかりの「推し」について書いた通信です。6年生の子どもたちに無理を言ってアンケート調査を行い、書かせていただきました。その結果がとても興味深く、新しい発見があった通信でした。

第1位：国語の教科書のハナシ（R5年度発行 No.16）

きっと保護者の皆様の印象にはあまり残っていないであろう、この号が一番のお気に入りです。多分、この号が「佐野らしさ」が一番ある通信なんだろうな、と勝手に考えています。図書室にもコーナーを設置していただき、子どもたちにも紹介した本を読んでもらえたことが、とても嬉しかったです。

学校通信を書くことによって、学校の様子をお伝えすること以上に、校長という立場にある私自身がどんな人間で、どんなことを考えているかを保護者の皆様知っていただけたように思っています。今年も3月の終業式まで学校通信は発行を続けたいと思っていますので、もう少しの間、佐野のつぶやきにお付き合いいただければ幸いです。



佐野が書いた学校通信のタイトル

